

はじめに

富山市牧野に所在する医王山東薬寺は、平安後期の木造不動明王坐像(富山県指定)を本尊とする真言宗古刹である〔古川・松浦他 2011〕。本寺には刀剣形に加工された組合せ式の木製品が所蔵されている。本稿では、この木製品を「剣形木製品」と呼び、その性格を検討する。

1 東薬寺の変遷

本寺本堂は、明治 20 年以前に山麓部から現在地に移転した。本寺に残る閉鎖公図写図には、旧寺有地が緑で塗られ、旧道は赤線で示される。明治 10 年代までの旧本堂は、現在の参道入口の南 50m 付近において、320m×240m の広さを有した。一角には雙地藏が安置されていた。内一体は公民館前地藏堂の中の加賀藩十村野口兵四郎寄進の寛延 2 年(1749)石仏とみられる。

これ以前は東薬寺山麓直下の参道沿いの通称「テラヤシキ」(写真 5) に存在した。

閉鎖公図によれば、テラヤシキの北方に同規模の寺地と「シンミョウドウ」(写真 6) と呼ばれる社地が隣接して存在する。後述の棟札が示すように、東薬寺は熊野社の別当寺であったことから、ここに東薬寺と熊野社が並存していたと推定される。

テラヤシキ東方の通称「ツリガネダ」からは、平安時代の礎石建物の八角形柱が出土しており、ここに東薬寺の前身「牧野寺」が存在したことを示している〔古川ほか 2011〕。

2 概要

この剣形木製品が本寺に所蔵された経緯は不明である。旧本堂解体の際に現住職が発見し、保管したものである。この剣形木製品は、本体と台座からなり、表面に墨書がある。

本体は、両刃の剣形で、高さ 30cm、剣先幅 4.8cm、厚さ 1cm、重さ 56.2g である(写真 1)。

台座は、八角形に加工された板の中央を 6×10mm の長方形に削り貫き、本体下部のホゾを差し込む。幅 8.6cm、厚さ 1.1cm、重量 26.61g。裏面に墨書が見られるが、薄く解読が困難である(写真 2)。

本体の正面・裏面・側面 2 面の計 4 か所に墨書が認められる。

正面 「奉神納御劔 氏神再建之砌 氏子中敬白」



図1 東薬寺の位置と周辺伝承地



図2 東薬寺周辺地割図と伝承地

裏面 「寛政八年丙辰年六月吉日 別當醫王山如実代」

右側面 「悪魔降伏 悉敵退散」 左側面 「村内安全 諸人快樂」

この木製品は、寛政8年(1796)に氏神再建にあたり作成された。東薬寺住職如実の代(没年不明)に、氏子らが氏神を再建し、奉納したと記されている。氏神とは、シンミョウドウにあった神明社もしくは熊野社と推定される。悪魔をひれ伏し退散させ、村内が安全で人々が安心できるよう記された文言から、神社再建は牧野村繁栄の願いを込めたことが分かる。

この内容から、氏神を祀る神社の別当寺が東薬寺であったこと、寛政8年6月に東薬寺住職は如実であったことがわかる。如実住職は寛政5年に死去した良賢如海の父である(当寺過去帳)。

3 剣形木製品の意味

剣形木製品は、その形状から見ると、不動明王が右手に持つ利剣「俱利伽羅剣」の形を模したものとみられる。俱利伽羅剣は三昧耶形では不動明王の象徴そのものと理解されている。不動明王を本尊としていた東薬寺は、「氏神」の別当寺である証として、不動明王の象徴である俱利伽羅剣の形代を氏神の宮に奉納したと考えられる。側面に書かれた「悪魔降伏 悉敵退散」の文言は、不動明王の本来の靈験の一つを表現したものであることから、この形代を不動明王に見立て、悪魔除けの呪符の性格を付与したと理解される。

4 氏神の宮について

東薬寺が別当寺となった氏神の宮について検討する。

以前牧野集落には神明社が存在したが、現在は黒川右岸の福沢神明社に合祀されている。

東薬寺には、文政10年(1827)神明社建立の時に作成された長さ29.7cm、幅9cmの棟札が所蔵されている。木札の正面の墨書は右のとおりである。その内容は、東薬寺住職光賢の代に九郎兵衛を代表とした氏子らにより、神明社が建立されたとある。光賢は嘉永2年(1849)帝龍寺において死去した。中央上部に打付けた釘穴が残る。

神明社の跡地は、通称「シンミョウドウ」と呼ばれ、東薬寺の北西100mの山麓部の谷間、字牧野775番地である。昭和17年「神社明細帳」には、当該地には村社熊野社とその境内社神明社とが併存し、明治末に福沢神明社に合祀されたとある。

シンミョウドウは神明社の社殿があった熊野社境内であったと推定される。社地としては狭く、一段低い北側の低地も含んでいたとみられる。

5 小結

東薬寺に所蔵されている剣形木製品は、不動明王の俱利伽羅剣を模したものである。東薬寺は、熊野神社とその境内社神明社の別当寺であり、その頃はシンミョウドウと呼ばれる神社地に隣接して寺地が存在したと推定される。不動明王を本尊とする本寺の特色を生かし、このような特殊な形態の呪符が製作されたものと考えられる。

本資料の調査をご了承いただいた東薬寺人見照道御住職に御礼申し上げる。

于時文政十丁	亥歳別當医王山東薬密寺現住
奉建立神明社	光賢代
大工	
八月五日 肝煎牧野村九郎兵衛氏子中河原町	
源三良	



图1 刀形木製品本体 実測図 (1:2)

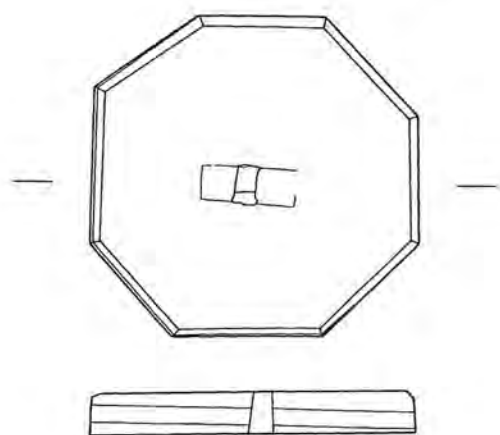


图2 台座実測図 (1:4)

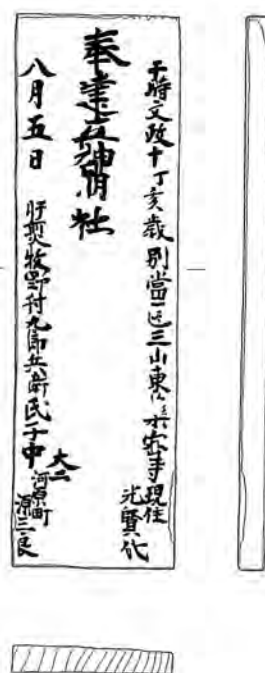


图3 棟札 実測図 (1:4)



写真1 剣形木製品 表(全体)

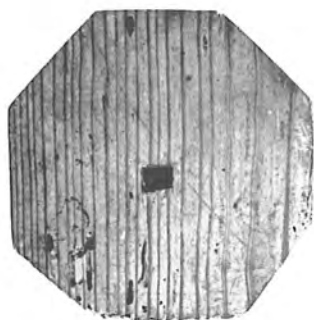


写真2 台座裏面墨書 (画像加工)



写真3 棟札



写真4 東葉寺の位置（東から）



写真5 テラヤシキ近景



写真6 シンミョウドウ近景

文献

井上鋭夫校訂 1974 『日本海文化叢書第一巻 加越能寺社由来』石川県図書協会

石原与作 1963 『大山史話』

大山町史編纂委員会編 1964 『大山町史』

長島勝正・木倉豊信編 1966 『富山県の文化財（県指定編）』富山県教育委員会

長島勝正編 1975 『富山文庫8 越中の彫刻』巧玄出版

長島勝正 1991 『とやまの古美術』文献出版

古川知明・伊集守道 2008 「医王山東葉寺の文化4

年銘宝篋印塔下の埋納礫石経の調査」『富山市考古資料館紀要』27

古川知明・松浦正昭・吉田生物研究所・パレオ・ラボ 2010 「医王山東葉寺蔵木造不動明王坐像の年代測定分析について」『富山市考古資料館報』47

古川知明・パレオ・ラボ 2011 「医王山東葉寺蔵柱材の調査」『富山市の遺跡物語』12

古川知明 2014 「医王山東葉寺蔵木造弘法大師像の仏師について—近世期仏師の新資料—」富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報『富山市の遺跡物語』15

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第18号

平成29（2017）年3月31日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL. 076-442-4246 FAX. 076-442-5810

E-mail: maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 前田印刷株式会社